

平成28年度 第1回沖縄県公共工事入札契約適正化委員会 議事概要

開催日及び場所	平成28年6月21日 県庁11階第1・2会議室	
出席者氏名	島袋秀勝 下里哲弘 古荘みわ 宮城初枝 真喜屋治 榎本拓也 友利清和	
審議対象期間	平成27年12月1日 ~ 平成28年3月31日	
再苦情処理件数	件数 0件	
入札審議内容及び件数	建設工事	建設工事に係る測量、調査、設計及び工事監理業務
	総件数 299件	総件数 110件
①一般競争入札	91件	12件
②総合評価	57件	23件
③指名競争入札	122件	63件
④随意契約	29件	12件
委員からの意見・質問、それに対する回答	意見・質問	回答
	別紙のとおり (総質問件数 8件)	別紙のとおり
委員会による意見の具申の内容	なし	
その他の意見	特になし	

## 平成28年度第1回 沖縄県公共工事入札契約適正化委員会 抽出事案一覧

## 1. 建設工事 抽出事案

一般競争入札			
	工事名	工種	担当課・所
①	中城湾港(新港地区)東埠頭上屋新築工事(建築)	建築工事	土木建築部 港湾課
②	糸満漁港(南地区)第3・第5防波堤機能保全工事(H27-2)	土木一式工事	農林水産部 南部農林土木事務所

総合評価方式			
	工事名	工種	担当課・所
③	航空機整備基地新築工事(造成2期及び格納庫建築)	建築工事	土木建築部 施設建築課

指名競争入札			
	工事名	工種	担当課・所
④	龍潭線街路改良工事(H27-1)	土木工事	土木建築部 南部土木事務所
⑤	中城村北浜海岸護岸工事	土木一式工事	農林水産部 中部農林土木事務所

随意契約			
	工事名	工種	担当課・所
⑥	浦添西原線都市モノレール建設工事(浦西分岐器製作設置工)	機械器具設置工事	土木建築部 都市モノレール建設事務所

## 2. 建設工事に係る測量、調査、設計及び工事監理の業務 抽出事案

一般競争入札			
	業務名	業種	担当課・所
⑦	陽明高校校舎改築工事実施設計業務(2工区)	建築関係建設コンサルタント	土木建築部 施設建築課

総合評価方式			
	業務名	業種	担当課・所
⑧	宜野湾北中城線トンネル計測管理業務委託	土木関係建設コンサルタント	土木建築部 中部土木事務所

指名競争入札			
	業務名	業種	担当課・所
⑨	H27那覇北中城線(上之屋道路)調査測量設計業務委託	土木関係コンサルタント	土木建築部 南部土木事務所

随意契約			
	業務名	業種	担当課・所
⑩	H28新石垣空港モニタリング調査業務委託(その2)	調査業務	土木建築部 八重山土木事務所

平成28年度 第1回沖縄県公共工事入札契約適正化委員会 議事概要

意見・質問	回答
<p><b>Q 1</b> 「浦添西原線都市モノレール建設工事(浦西分岐器製作設置工)」と「H28新石垣空港モニタリング調査業務委託(その2)」は随意契約であるが、落札率100%でない理由は何か。</p>	<p><b>A 1</b> 見積予定価格については、随意契約相手方から見積をもらって、それをもとに予定価格を設定し先方が応札するが、結果として差が出ている。 随意契約相手方からの見積を参考見積として、それを基本ベースに必要な歩掛かり等を精査しながら予定価格を設定した結果が差額となっている。</p>
<p><b>Q 2</b> 「陽明高校校舎改築工事実施設計業務(2工区)」の落札率76%であるが、予定価格に近い数字を出しているところは失格になっていないのに、この業者が落札した理由は何か。</p>	<p><b>A 2</b> 最低制限価格を下回らない中で最も安い入札額を提示したところが落札業者となった。</p>
<p><b>Q 3</b> 抽出事案の中で、建築工事に係る案件は、最低制限価格が予定価格の約90～80%であるが、コンサル系の測量、調査、設計等は約75%となっている。最低制限価格を決める根拠は何か。 委託の最低制限価格をあげた方がよいと思うがどうか。</p>	<p><b>A 3</b> 工事については、全国でも公契連モデルよりも率の高い算定式を独自に設けているところもあり、沖縄県は、沖縄県建設業審議会の答申に基づき設定をしている。 委託については、全国的にも国交省の基準に基づいている県が多いことから、沖縄県でも同様の取り扱いを行っている。 平成27年度に委託の最低制限価格を試行的に導入したばかりであるが、今後、見直しの際には関係団体等のご意見を聞きながら検討していきたい。</p>

**Q 4**

指名競争入札で、指名しているにもかかわらず「辞退」業者が多く、結果、1社のみが入札参加となっているが、原因は何か。

**Q 5**

公共工事があるにもかかわらず、技術者が足りないということで、競争させようにも競争にならない状況である。今後の対策はあるのか。

**A 4**

入札不調対策として、昨年1月より辞退業者に辞退理由を聞いたとこと、「技術者がいない」という理由が一番多かった。

**A 5**

小さい工事をまとめて発注する、代理人が主任技術者を兼ねる、工期に余裕をもたせる等のことはやっているが、技術者については不足気味である。今後、業界を含めて若手技術者を育てる必要があると考えている。